

「水銀説」強く浮かぶ

厚生省 水俣病の原因究明

二日渡辺厚相が出した「水俣病の原因」に対する諮問に答えるため厚生省の食品衛生調査会（会長河野勝馬慶大教授）では同会常任委員会、技術部会、水産部会、水俣特別部会の四部合同による第一回会合を六日午後一時半から東京日比谷公園内松本楼で開いた。これには対策関係の水産庁、通産省からも係員が参加して三十六人が出席、明確な結論が期待されたが、有機性水銀説が強く浮きぼりされたものの断定されるまでに到らなかった。

会合は秘密会とし、熊本からは水俣特別部会会長鰐淵前熊大議長、臨時委員として内田熊大医学部教授（生化学）、浜崎県衛生部長の三人が出席した。四時間にわたる審議のあと阿部会長が経過を報告したが、鰐淵特別部会会長を中心に調査、研究の結果がのべられ、これに對しかなり活発な質問、意見

がたたかわされたもよう。結局有機性水銀説が大きくとりあげられたが、それ単一のものか、プラス・アルファによるか検討を要するとされている。一時さわがれたセレン、マンガン、タリウム説は影をひそめたが、プラス・アルファとしてはなお注意すべき点があるようで、工場関係については何ら論議にのぼらなかったと発

表があった。しかし同委でも有機性水銀かまたはプラス・アルファの説に一応意見がまとったのは、原因究明の結論が近づいていることを認めており、年度内には大臣への答申を行ないたいとの意向をもらした点からみて、断定される核心に近まっていることは間違いないようだ。なお次回同委開催日は未定。（東京支社）